



## 特定非営利活動法人 バリアフリーネットワーク会議 空港を観光拠点とするユニバーサルツーリズム

## ムの多面的な活動

### 講評

受賞者は、分野・組織の壁を越え一貫して障害者の立場に立ち、沖縄観光のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化に継続的に取り組んでおり、那覇空港に設置した日本初の空港内観光案内所である「しょうがい者・こわい者観光案内所」は、単なるバリアフリー案内所を超えた総合的なバリアフリーツアー援助システムの空港窓口として優れた機能を有している。こうした、窓口を拠点とした多面的な活動により、ユニバーサルツーリズムの推進において全国の模範となるような取組みを進めた点を高く評価し、表彰することとした。

### 受賞者の取組み

#### ■ 取組みの概要

特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議は、那覇空港内に障害者・高齢者等の沖縄旅行をサポートするワンストップ相談窓口となる「しょうがい者・こわい者観光案内所」を設置し、沖縄のバリアフリー対応の観光地等の情報提供や、車椅子・ベビーカー等の貸出を実施している。また旅行への同行や入浴介助なども行っており、修学旅行者からの依頼については無料で対応している。また平成25年には国際通りにも「しょうがい者・こわい者観光案内所」を設置し、同様のサービスの他、一時保育や荷物の一時的預かりなどのサービスも行っている。



【しょうがい者・こわい者観光案内所】(那覇空港内)



貸出用の車椅子とベビーカー



【しょうがい者・こわい者観光案内所】(国際通り)

#### ● 人材育成

琉球大学と連携し、観光ケアサポーター（旅行への同行や入浴、食事等の介助を行う人材）を育成する講座を開設し、人材育成に努めている。

#### ● 編集・出版

障害者の方がホテルなどの観光施設で災害にあった際の避難方法をまとめた「逃げるバリアフリーマニュアル」、沖縄県内のバリアフリーに対応した観光施設の紹介や実際に障害のある人が施設に行った際の体験レポートをまとめた「そらくる沖縄」、沖縄の公園のバリアフリー化のあり方をまとめた「沖縄ユニバーサル公園等建設指針」などの編集・出版を行っている。



沖縄ユニバーサル公園等建設指針



そらくる沖縄

#### ◎ 今後期待される取組み

ユニバーサルツーリズムにおける先進的な取組みを継続的かつ組織的に発展させていくことが期待される。

### 喜びの声



**特定非営利活動法人  
バリアフリーネットワーク会議  
理事長 親川 修 氏**

#### 【コメント】

この度は、大名家名のある賞を頂いたこと心から感謝申し上げます。

今回の賞は、沖縄県や各行政機関、そして観光関連機関の多大なるご協力の賜物であると考えています。特に沖縄県に対しては、名もなく小さな法人である私たちを信じ、最後まで後押しして頂いたことに深く感謝申し上げます。

小さな歩みの活動でしたが、今では、年に1万人以上の皆さまに活用される案内所となりました。

今後も超高齢社会における「観光と福祉」の懸け橋となり、沖縄を愛し来訪されるすべての皆さまの大きな「笑顔」がより多く見られる活動をこれからも続けていきます。

#### 【受賞者】

特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議

#### 【連絡先】

沖縄県沖縄市原屋 1-14-14

#### 【活動等の経緯】

- 平成15年 NPO法人設立  
人工透析観光プログラムを開始。同時に障がい者の旅のサポート事業を開始。  
沖縄県福祉保健部より沖縄県バリアフリーマップ事業受託
- 平成17年 6月 児童サービス事業開始。(現在3施設運営)  
12月 県内初のBF観光冊子「シェアウォーカー」発行
- 平成19年 2月 沖縄県知事による「観光バリアフリー宣言」(沖縄県観光バリアフリー化推進事業)
- 11月 那覇空港しょうがい者・こわい者観光案内所設置
- 平成21年 3月 沖縄観光案内冊子「そらくる沖縄」発行(年一回発行現在VO5)  
3月 沖縄県福祉保健部より推進功労表彰 県知事賞受賞  
9月 沖縄県福祉保健部より沖縄県バリアフリーマップ事業受託
- 平成24年 8月 那覇市観光功労者表彰 団体賞受賞
- 平成25年 3月 沖縄県福祉保健部よりノンステップバス「そらポート号」導入  
7月 那覇市安里に「那覇国際通りしょうがい者・こわい者観光案内所」設置  
11月 那覇市松原に「那覇国際通りしょうがい者・こわい者観光案内所」設置

#### 【Web - URL】

<http://barifuri-okinawa.org/bfn/index.html>

## 事例紹介：「逃げるバリアフリー」バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰(R1.12)



NPO法人バリアフリーネットワーク会議では、観光地における移動・災害弱者に対する避難対応を目的とし、高齢者や障害者等が安全に避難する「逃げるバリアフリー」の取組を行っている。

### 【これまでの取組】

「逃げるバリアフリーマニュアル」発行  
(平成25年)

逃げるバリアフリー第一回実証実験  
(平成28年2月10日)

逃げるバリアフリー第二回実証実験  
(平成28年11月7日)

「観光地における逃げるバリアフリー」研究報告  
(平成29年3月)

「逃げるバリアフリーマニュアル改訂版」発行  
(平成30年3月)

逃げるバリアフリー第三回実証実験(夜間訓練)  
(平成30年11月27日)



### 災害時バス車内における障害者・高齢者の避難対応に関する実証実験(令和元年10月5日)

- ・バス運行中の事故による火災を想定し、緊急停車、乗車している障害当事者等の避難訓練を実施。
- ・障害の種別ごとに配慮事項を確認しつつ、運転者及び協力者が誘導・避難。
- ＜アンケート及び検証結果＞
- ・当事者参加の避難訓練を実施する事業者は少ない。
- ・健常者に比べ当事者の避難完了に約3.2倍の時間を要す。
- ・肢体不自由者が避難に最も時間がかかる。
- ・満員時より閑散時の方が避難の協力が得られず、避難完了までに2倍程度の時間差があることが判明。
- ・同時に競技場でも避難訓練を行ったところ、避難中に盲導犬を連れて視覚障害者が階段で転倒、スロープの方が望ましいことを改めて認識。
- ⇒オリンピック・パラリンピックを控え、各競技会場での災害時の要援護者等の避難訓練の実施が望まれる。

### 実証実験の概要

カフリゾートフチャクCOND・ホテル(第1回:H28.2月)	オキナワ・グランメルリゾート(第2回:H28.11月)	ホテルバームロイヤルNAHA(第3回:H30.11月 夜間実施)
疑似障害当事者等の居室からの避難・誘導を3回に分けて実施 ①高齢者と肢体不自由者 ②視覚障害者と聴覚障害者 ③高齢者	障害当事者の居室からの避難・誘導を3回に分けて実施 ①視覚障害者と聴覚障害者 ②肢体不自由者 ③高齢者と肢体不自由者	障害当事者等の居室からの避難・誘導を4回に分けて実施 ①外国人 ②視覚障害者 ③肢体不自由者 ④視覚障害者

### 【実証実験の結果】

	第1回	第2回		第3回
視覚障害者	(疑似)9分56秒	(白)4分6秒	(犬)2分28秒	5分4秒
聴覚障害者	(疑似)4分28秒	(無)5分21秒	2分25秒	5分18秒
肢体不自由者	8分28秒	3分45秒		10分19秒
高齢者・他	(疑似)8分46秒	3分18秒	(健)49秒	(外)6分5秒

※疑似:疑似体験者、白:白杖、犬:盲導犬、無:事前情報準備無し、健:健常者、外:外国人  
※第2回の一部を除いては障害種別計測の平均値

健常者に比べ2倍から5倍の避難時間を要することから、以下の対応が求められる。

- ・緊急時の情報提供のあり方  
視覚障害者・聴覚障害者  
→見えるものを聞こえる情報に、聞こえる情報を見える情報に
- ・事前の情報共有  
要配慮者別名簿の作成及び情報共有の標準化  
要配慮者の避難経路の事前確認の推奨
- ・研修及び訓練実施の有効性  
器具を使用するものに関しては特に有効  
配慮の種別に応じた対応の必要性の認識

### 【実証実験の様子】



＜肢体不自由者＞ ＜視覚障害者＞